



Attorney Docket No. 300.1153

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re Patent Application of:

Michio HORIUCHI, et al.

Application No.: 10/816,879

Group Art Unit:

Filed: April 5, 2004

Examiner:

For: FUEL CELL DEVICE

**SUBMISSION OF CERTIFIED COPY OF PRIOR FOREIGN
APPLICATION IN ACCORDANCE
WITH THE REQUIREMENTS OF 37 C.F.R. § 1.55**

Commissioner for Patents
PO Box 1450
Alexandria, VA 22313-1450

Sir:

In accordance with the provisions of 37 C.F.R. § 1.55, the applicant(s) submit(s) herewith a certified copy of the following foreign application:

Japanese Patent Application No(s). 2003-104333

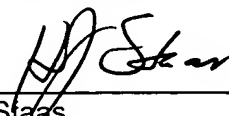
Filed: April 8, 2003

It is respectfully requested that the applicant(s) be given the benefit of the foreign filing date(s) as evidenced by the certified papers attached hereto, in accordance with the requirements of 35 U.S.C. § 119.

Respectfully submitted,

STAAS & HALSEY LLP

Date: April 29, 2004

By: 
H. J. Staas
Registration No. 22,010

1201 New York Ave, N.W., Suite 700
Washington, D.C. 20005
Telephone: (202) 434-1500
Facsimile: (202) 434-1501

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

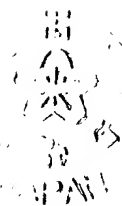
別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 3 年 4 月 8 日
Date of Application:

出 願 番 号 特 願 2 0 0 3 - 1 0 4 3 3 3
Application Number:
[ST. 10/C]: [J P 2 0 0 3 - 1 0 4 3 3 3]

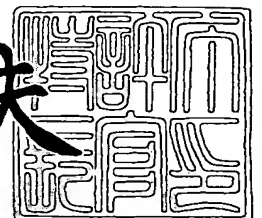
出 願 人 新 光 電 気 工 業 株 式 有 限 公 司
Applicant(s):



2 0 0 4 年 3 月 1 0 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今 井 康 夫



出証番号 出証特 2 0 0 4 - 3 0 1 8 5 4 6

【書類名】 特許願

【整理番号】 P0354109

【提出日】 平成15年 4月 8日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 H01M 8/10

【発明の名称】 燃料電池

【請求項の数】 5

【発明者】

【住所又は居所】 長野県長野市大字栗田字舎利田 7 1 1 番地 新光電気工業株式会社内

【氏名】 堀内 道夫

【発明者】

【住所又は居所】 長野県長野市大字栗田字舎利田 7 1 1 番地 新光電気工業株式会社内

【氏名】 菅沼 茂明

【発明者】

【住所又は居所】 長野県長野市大字栗田字舎利田 7 1 1 番地 新光電気工業株式会社内

【氏名】 渡邊 美佐

【特許出願人】

【識別番号】 000190688

【氏名又は名称】 新光電気工業株式会社

【代理人】

【識別番号】 100077621

【弁理士】

【氏名又は名称】 綿貫 隆夫

【選任した代理人】

【識別番号】 100092819

【弁理士】

【氏名又は名称】 堀米 和春

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 006725

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9702296

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 燃料電池

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 固体電解質層の一面側にアノード層が形成されていると共に、前記固体電解質層の他面側にカソード層が形成された少なくとも二個の燃料電池セルから成る燃料電池セル部を具備する燃料電池において、

該少なくとも二個の燃料電池セルが、前記燃料電池セルの一方のアノード層と他方の燃料電池セルを形成するアノード層とが対向するように配設され、

前記アノード層が対向する空間内で且つ前記アノード層の延出方向に火炎が形成されるように、前記空間の下端側に燃料供給手段が設けられている燃料電池。

【請求項 2】 燃料電池セル部が、少なくとも二個の筒状の燃料電池セルが同心状に配設されて形成されている請求項 1 記載の燃料電池。

【請求項 3】 燃料供給手段が、気体燃料を供給する燃料供給手段である請求項 1 又は請求項 2 記載の燃料電池。

【請求項 4】 燃料供給手段が、液体燃料を供給する燃料供給手段である請求項 1 又は請求項 2 記載の燃料電池。

【請求項 5】 アノード層が、 Li が固溶された NiO を主成分とする焼成体によって形成されている請求項 1 ～ 4 のいずれか一項記載の燃料電池。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は燃料電池に関し、更に詳細には固体電解質層の一面側にアノード層が形成されていると共に、前記固体電解質層の他面側にカソード層が形成された少なくとも二個の燃料電池セルから成る燃料電池セル部を具備する燃料電池に関する。

【0 0 0 2】

【従来の技術】

燃料電池セルを火炎中に配して発電を行う燃料電池は、例えば下記特許文献 1 において提案されている。

【0 0 0 3】

【特許文献 1】

特開平 6 - 1 9 6 1 7 6 号公報（〔0 0 1 9〕、図 5）

【0 0 0 4】

特許文献 1 に記載された燃料電池の概要を、図 8 に示す。図 8 に示す燃料電池は、燃料電池セル 1 0 0 は、円筒状であって、ジルコニアから成る円筒状の固体電解質層の内周面側にカソード層が形成されていると共に、この固体電解質層の外周面側にアノード層が形成されている。

かかる燃料電池セル 1 0 0 は、燃焼装置 1 0 2 で着火された火炎 1 0 4 の還元炎 1 0 6 内にアノード層が位置するように配設する。

この様に、還元炎 1 0 6 内にアノード層が位置するように配設された円筒状の燃料電池セル 1 0 0 では、カソード層が形成された内周面側に火炎 1 0 4 の対流によって送り込まれる空気中の酸素と、アノード層が形成された外周面が晒される還元炎 1 0 6 内に存在する炭化水素、水素、種々のラジカル等とを利用し、発電することができる。

【0 0 0 5】

【発明が解決しようとする課題】

図 8 に示す燃料電池では、燃料電池セル 1 0 0 を加熱するための外部電力を必要とせず、予期せぬ停電等に対応できる。

しかし、図 8 に示す燃料電池は、火炎 1 0 4 の還元炎 1 0 6 を利用するため、燃料電池セル 1 0 0 の外周面を可及的に幅広く還元炎 1 0 6 と接触させることが必要となり、火炎 1 0 4 に対して直交するように配設される。

このため、燃料電池セル 1 0 0 の外周面に沿って火炎 1 0 4 を形成することが必要であるため、燃焼装置 1 0 2 が大型化する。

しかも、複数本の燃料電池セル 1 0 0 を直列又は並列に結合して発電する際には、燃焼装置 1 0 2 を更に大型化せざるを得ず、燃料電池が更に大型化する。

更に、火炎 1 0 4 に対して直交するように配設された燃料電池セル 1 0 0 の内周面側には、火炎 1 0 4 により発生する空気の対流によって送り込まれる空気量は少なく、十分な空気量を燃料電池セル 1 0 0 の内周面側に送り込むためには、

送風機等によって強制的に空気を送り込むことを要し、送風機等を駆動する駆動電力を要することになり、予期せぬ停電等に直ちに対応できない。

また、燃料電池セル 1 0 0 の外周面側を火炎 1 0 4 で加熱していたため、火炎 1 0 4 の熱の一部が燃料電池セル 1 0 0 の加熱に使用されるに過ぎず、熱の大部分は燃料電池の系外に放熱されている。このため、燃料電池セル 1 0 0 の加熱に対する熱効率が低い。

そこで、本発明の課題は、火炎を利用した燃料電池であって、火炎の熱を効率的に用いることができ且つカソード層側に十分な空気を対流によって供給できる燃料電池を提案することにある。

【 0 0 0 6 】

【課題を解決するための手段】

本発明者等は、前記課題を達成すべく検討を重ねた結果、内径の異なる二個の円筒状の燃料電池セルの燃料電池セルを形成するアノード層と他方の燃料電池セルを形成するアノード層とが対向するように、二個の円筒状の燃料電池を同心円状に配設して形成した円柱状の燃料電池セル部を立設し、アノード層同士が対向する空間の下端側に火炎を形成することによって、円筒状の各燃料電池セルに形成されたカソード層に火炎による対流により十分な空気を供給できることを見出し、本発明に到達した。

すなわち、本発明は、固体電解質層の一面側にアノード層が形成されていると共に、前記固体電解質層の他面側にカソード層が形成された少なくとも二個の燃料電池セルから成る燃料電池セル部を具備する燃料電池において、該少なくとも二個の燃料電池セルが、前記燃料電池セルの一方のアノード層と他方の燃料電池セルを形成するアノード層とが対向するように配設され、前記アノード層が対向する空間内で且つ前記アノード層の延出方向に火炎が形成されるように、前記空間の下端側に燃料供給手段が設けられている燃料電池にある。

【 0 0 0 7 】

かかる本発明において、燃料電池セル部を、少なくとも二個の筒状の燃料電池セルを同心状に配設して形成することによって、発電に寄与する発電面積を可及的に広くできる。

更に、燃料供給手段として、気体燃料の供給手段を採用することによって、燃料供給手段を簡易化でき、或いは液体燃料の供給手段を採用することによって、燃料電池用の燃料を携帯でき、燃料電池を屋外で容易に用いることができる。

また、アノード層を、Liが固溶されたNiOを主成分とする焼成体によって形成することにより、還元炎・酸化炎にかかわらず炎の全領域で発電を行うことができる。

【0008】

本発明に係る燃料電池によれば、燃料電池セル部を構成する一方の燃料電池セルを形成するアノード層と他方の燃料電池セルを形成するアノード層とが対向する空間内で且つアノード層の延出方向に火炎が形成されるように、この空間の下端側に燃料供給手段が設けられている。このため、図8に示す燃料電池の如く、燃料電池セルに沿って火炎を形成することを要せず、燃焼装置の小型化を図ることができる。

更に、火炎は、アノード層の延出方向に形成され、火炎によって発生する空気の対流も火炎の形成方向に発生するため、カソード層側に対流のみで十分な空気量を供給でき、送風機等の空気の強制供給手段を省略できる。

また、火炎は、アノード層が対向する空間内で形成されるため、火炎からの熱を燃料電池セルの加熱に有効に利用でき、燃料電池セルを加熱するための加熱手段を設けることを要しない。

この様に、本発明に係る燃料電池では、燃焼装置の小型化を図ることができ、送風機等の空気の強制供給手段及び燃料電池セルを加熱するための加熱手段を省略できる結果、燃料電池の小型化及び簡易化を図ることができる。

【0009】

【発明の実施の形態】

本発明に係る燃料電池を形成する燃料電池セル部の一例を図1に示す。図1に示す燃料電池セル部10は、内径の異なる円筒状の二個の燃料電池セル10a、10bが、所定の空間14を介して同心状に配設されて形成されているものである。

かかる燃料電池セル部10を構成する燃料電池セル10a、10bは、図2に

示す燃料電池セル部 10 の部分断面図に示す様に、固体電解質層 12 a、アノード層 12 b 及びカソード層 12 c が同心状に積層されて形成されている。

かかる燃料電池セル 10 a, 10 b のうち、燃料電池セル 10 a は、燃料電池セル 10 b よりも内径が小径であり、固体電解質層 12 a の外周側にアノード層 12 b が形成されていると共に、固体電解質層 12 a の内周側にカソード層 12 c が形成されている。

この燃料電池セル 10 a よりも内径が大径である燃料電池セル 10 b は、固体電解質層 12 a の内周側にアノード層 12 b が形成されていると共に、固体電解質層 12 a の外周側にカソード層 12 c が形成されている。

この様に、燃料電池セル 10 a の外周面側にアノード層 12 b が形成され、燃料電池セル 10 b の内周面側にアノード層 12 b が形成されている。このため、内径が大径の燃料電池セル 10 b の内側に、内径が小径の燃料電池セル 10 a が挿入されて形成された燃料電池セル 10 では、燃料電池セル 10 a の外周面側に形成されたアノード層 12 b と、燃料電池セル 10 b の内周面側に形成されたアノード層 12 b とが対向する空間 14 が形成される。

【0010】

ここで、燃料電池セル 10 a, 10 b を形成する固体電解質層 12 a は、酸素イオン伝導体であって、イットリウム (Y) やスカンジウム (Sc) 等の周期律表第 3 族元素により部分安定化されたジルコニア酸化物、或いはサマリウム (Sm) やガドリウム (Gd) 等がドーピングされたセリウム酸化物によって形成することが好ましい。

また、アノード層 12 b として、Li が固溶された NiO を主成分とする焼成体によって形成されているアノード層 12 b を好適に採用できる。この焼成体は、導電性を有するセラミックであって、Li 化合物を NiO に Li₂O 換算で 1 ~ 15 mol% 添加し、焼成処理して得られる焼成体である。

かかるアノード層 12 b には、ロジウム、白金、ルテニウム、パラジウム、レニウム又はイリジウムから成る金属又はその酸化物が配合されている。この様な金属又はその酸化物が配合されたアノード層 12 b を具備する燃料電池セル 10 a, 10 b から構成される燃料電池によれば、ロジウム等の金属又はその酸化物

が配合されていないアノード層 12b を具備する燃料電池セル 10a, 10b から構成される燃料電池よりも高い発電性能を呈することができる。

このロジウム、白金、ルテニウム、パラジウム、レニウム又はイリジウムから成る金属又はその酸化物は、アノード層 12b 中に金属換算で 1～50 重量% となるように配合することが好ましい。

かかるアノード層 12b を構成する副成分として、サマリアドープドセリア、スカンジウム安定化ジルコニア、イットリウム安定化ジルコニアのうちのいずれかが 50 体積% 以下含まれるようにすることによって、ロジウム、白金、ルテニウム、パラジウム、レニウム又はイリジウムから成る金属又はその酸化物と混合燃料ガスとの接触面積を拡大できる。

更に、カソード層 12c は、ストロンチウム (Sr) 等の周期律表第 3 族元素が添加されたランタンのマンガン、ガリウム又はコバルト酸化化合物から形成されている。

かかるアノード層 12b 及びカソード層 12c は、多孔質層であって、その開気孔率を 20% 以上、好ましくは 30～70%、特に 40～50% とすることが好ましい。

【0011】

図 1 及び図 2 に示す円筒状の燃料電池セル 10a は、カソード層 12c と同質材を用いて形成した保形性を有する筒状体を芯材とし、この芯材の外周面側に固体電解質層 12a となる固体電解質用セル材とアノード層 12b となるアノード層用セル材とを、この順序で巻き付けるか、或いはこれらのペーストを塗布した後、所定温度で焼成することによって得ることができる。

また、燃料電池セル 10b は、アノード層 12b と同質材を用いて形成した保形性を有する筒状体を芯材とし、この芯材の外周面側に固体電解質層 12a となる固体電解質用セル材とカソード層 12c となるカソード層用セル材とを、この順序で巻き付けるか、或いはこれらのペーストを塗布した後、所定温度で焼成することによって、所望内径のものを得ることができる。

【0012】

内径の異なる円筒状の二個の燃料電池セル 10a, 10b が所定空間 14 を介

して同心状に配設されて形成された燃料電池セル部 10 は、図 3 に示す様に、立設された状態でアノード層 12 b, 12 b が対向する空間 14 の下端部に、ブタンやプロパン等の気体燃料を供給する燃料供給手段としてのノズル 16, 16 · · が設けられている。

かかるノズル 16, 16 · · の各々に、気体燃料が供給されて着火されると、火炎 18, 18 · · は、アノード層 12, 12 b の延出方向に形成される。このため、火炎 18, 18 · · は、アノード層 12 b, 12 b に囲まれるため、火炎 18, 18 · · からの熱は、燃料電池セル 10 a, 10 b の加熱に充分利用でき、燃料電池セル 10 a, 10 b を加熱する外部加熱手段を不要にできる。

更に、火炎 18, 18 · · によって生成される炭化水素、水素、種々のラジカル等は、火炎 18, 18 · · を囲むアノード層 12 b, 12 b によって発電に利用できる。特に、Li が固溶された NiO を主成分とする焼成体によって形成されたアノード層 12 b を具備する燃料電池セル 10, 10 b では、火炎 18, 18 · · の還元炎部分のみならず、酸化炎部分も発電に利用できる。

かかる火炎 18, 18 · · は、アノード層 12 b, 12 b の延出方向に形成されるため、火炎 18, 18 · · によって惹起される空気の対流は、火炎 18, 18 · · の延びる方向と同一方法となる。このため、空気は、空間 14 内に供給されると共に、カソード層 12 c 側にも供給され、火炎 18, 18 · · に晒されるアノード層 12 b との間で起電力が発生する。

【0013】

図 3 に示す燃料供給手段は、気体燃料を供給する燃料供給手段について説明したが、液体燃料を供給する燃料供給手段であってもよい。

液体燃料を供給する燃料供給手段の一例を図 4 に示す。図 4 は、エタノール等の液体燃料を供給する燃料供給手段を、立設された燃料電池セル部 10 のアノード層 12 b, 12 b が対向する空間 14 の下端部に設けた状態を説明する部分断面図である。

図 4 に示す燃料電池セル部 10 は、図 3 に示す燃料電池セル部 10 と同一部材は同一番号を付して詳細な説明を省略する。

図 3 に示すエタノール等の液体燃料を供給する燃料供給手段は、エタノール等

の液体燃料 32 を貯留する貯留タンク 30 と、貯留タンク 30 内の液体燃料 32 に一端が浸漬されていると共に、他端がアノード層 12b, 12b が対向する空間 14 の下端部に挿入された供給部材 20 とから構成される。この供給部材 20 は、液体燃料を毛細管現象で上端側に輸送する耐熱性を有する繊維状材が集束された部材を用いることができる。この供給部材 20 は、上下方向に移動可能に設けられていてもよい。

かかる供給部材 20 の上端からは液体燃料が気化し着火すると、図 4 に示すように、火炎 22, 22・・・は、アノード層 12b, 12b の延出方向に形成される。このため、図 3 に示す燃料電池と同様に、火炎 22, 22・・・からの熱と炭化水素、水素、種々のラジカル等とを利用し、燃料電池セル 10a, 10b の加熱及び発電を行うことができる。

【0014】

図 1～図 4 に示す燃料電池セル部 10 は、二個の燃料電池セル 10a, 10b から成る。かかる燃料電池セル 10a, 10b の各々で発電された電気を個々に取り出してもよいが、図 5 に示す様に、導電線 24, 24 によって燃料電池セル 10a, 10b を平行に結線し、或いは図 6 に示す様に、導電線 24, 24・・・によって燃料電池セル 10a, 10b を直列に結線して電気を取り出すことが好ましい。

図 1～図 6 に示す燃料電池セル部 10 は、二個の円筒状の燃料電池セル 10a, 10b を同心状に積層した形成したが、図 7 に示す様に、複数枚の平板状の燃料電池セルから成る燃料電池セル部 40 であってもよい。

図 7 に示す燃料電池セル部 40 は、四枚の平板状の燃料電池セル 40a, 40b, 40c, 40d が、所定の間隙の空間 14, 14 を介して配設されている。

かかる燃料電池セル 40a, 40b, 40c, 40d の各々は、固体電解質層 42a の一面側にアノード層 42b が形成され、固体電解質層 42a の他面側にカソード層 42c が形成されている。

これらの燃料電池セル 40a, 40b, 40c, 40d のうち、燃料電池セル 40a, 40b と燃料電池セル 40c, 40d とは、そのアノード層 42b, 42b が対向するように配設される。

【0015】

図7に示す燃料電池セル部40では、アノード層42b、42bが対向する空間14、14に、図3又は図4に示す様に、気体燃料又は液体燃料を供給する燃料供給手段が設けられる。

図7に示す燃料電池セル部40を構成する燃料電池セル40a、40b、40c、40dは、図1～図6に示す燃料電池セル10a、10bと同一材料で形成されており、ここでは詳細な説明を省略する。

また、燃料電池セル40a、40b、40c、40dは、予め焼成して形成した固体電解質層42aに、所定形状の各層用のグリーンシートを積層した後、又は各積層用のペーストを所定形状に塗布した後、再焼成することによって得ることができる。

更に、燃料電池セル40a、40b、40c、40dで発電された電気は、各燃料電池セルから単独で取り出してもよいが、燃料電池セル40a、40b、40c、40dを平行又は直列に結線して取り出してもよい。

【0016】**【発明の効果】**

本発明に係る燃料電池によれば、火炎の熱を効率的に用いることができ且つカソード層側に十分な空気を対流によって供給できる。このため、アノード層側の火炎によって燃料電池セルを加熱しつつ、この火炎によって生成される炭化水素、水素や各種のラジカル等とアノード層側の空気中の酸素とを有効に利用して発電できる。

その結果、燃料電池を小型化できると共に、燃料電池セルを発電可能温度まで昇温する外部加熱手段を不要にでき、キャンプや災害地等の屋外においても、携帯タンク等から燃料を供給することによって燃料電池を使用できる。

また、燃料電池で生じた熱は、部屋内の暖房にも使用でき、省エネルギーを図ることもできる。

【図面の簡単な説明】**【図1】**

本発明に係る燃料電池を構成する燃料電池セル部を説明する斜視図である。

【図 2】

図 1 に示す燃料電池セル部の部分断面図である。

【図 3】

図 1 に示す燃料電池セル部に気体燃料を供給する燃料供給手段の一例を説明する部分断面図である。

【図 4】

図 1 に示す燃料電池セル部に液体燃料を供給する燃料供給手段の一例を説明する部分断面図である。

【図 5】

図 1 に示す燃料電池セル部を構成する二個の燃料電池セルを並列に結線した状態を説明する部分断面図である。

【図 6】

図 1 に示す燃料電池セル部を構成する二個の燃料電池セルを直列に結線した状態を説明する部分断面図である。

【図 7】

本発明に係る燃料電池を構成する燃料電池セル部の他の例を説明する斜視図である。

【図 8】

従来の燃料電池について説明する概略図である。

【符号の説明】

1 0, 4 0 燃料電池セル部

1 0 a, 1 0 b, 4 0 a, 4 0 b, 4 0 c, 4 0 d 燃料電池セル

1 2 a, 4 2 a 固体電解質層

1 2 b, 4 2 b アノード層

1 2 c, 4 2 c カソード層

1 4 空間

1 6 ノズル

1 8, 2 2 火炎

2 0 供給部材

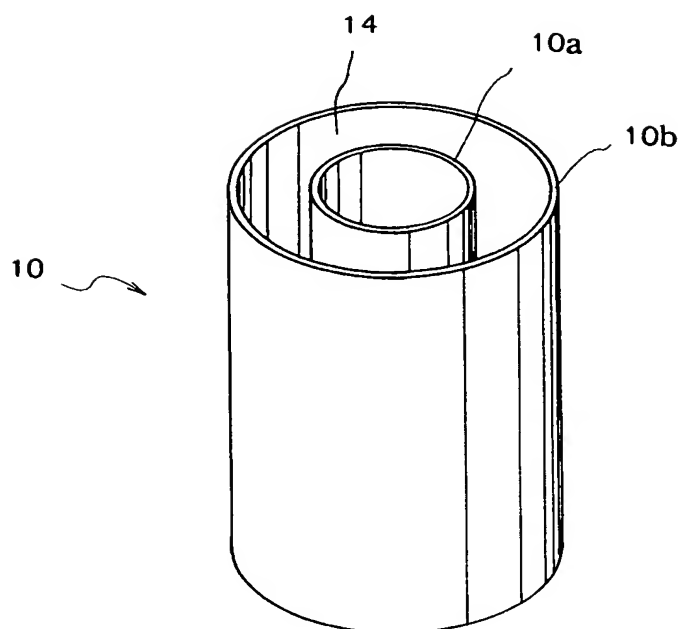
2 4 導電線

3 0 貯留タンク

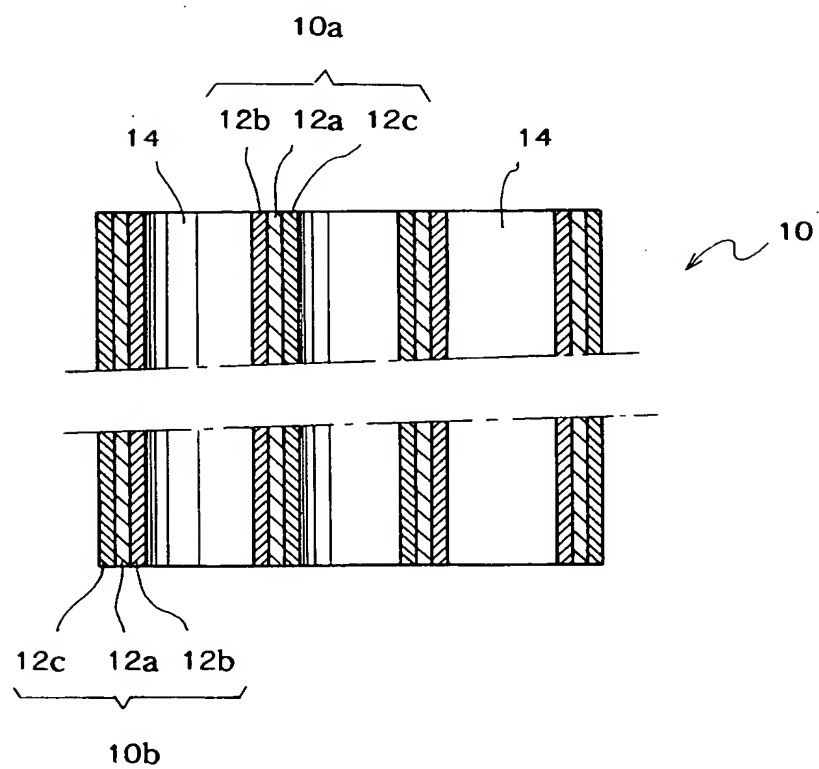
3 2 液体燃料

【書類名】 図面

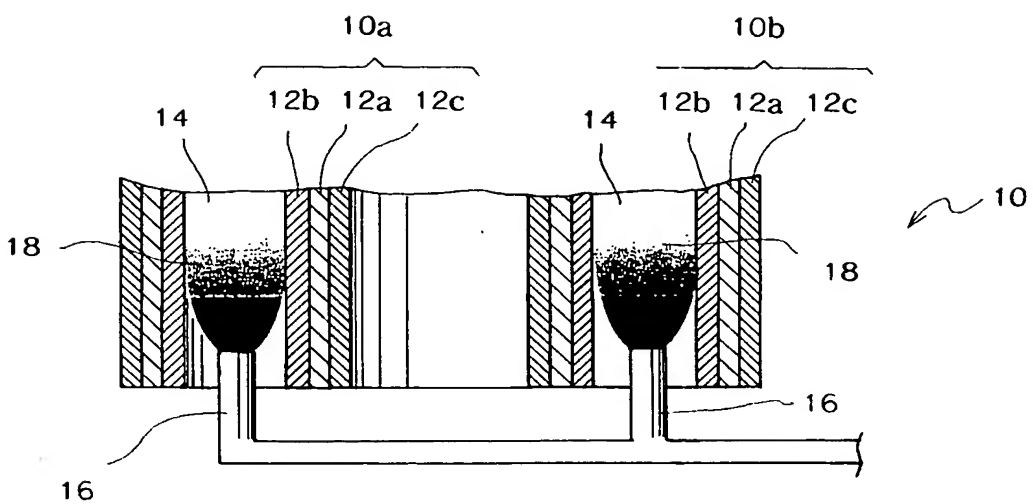
【図 1】



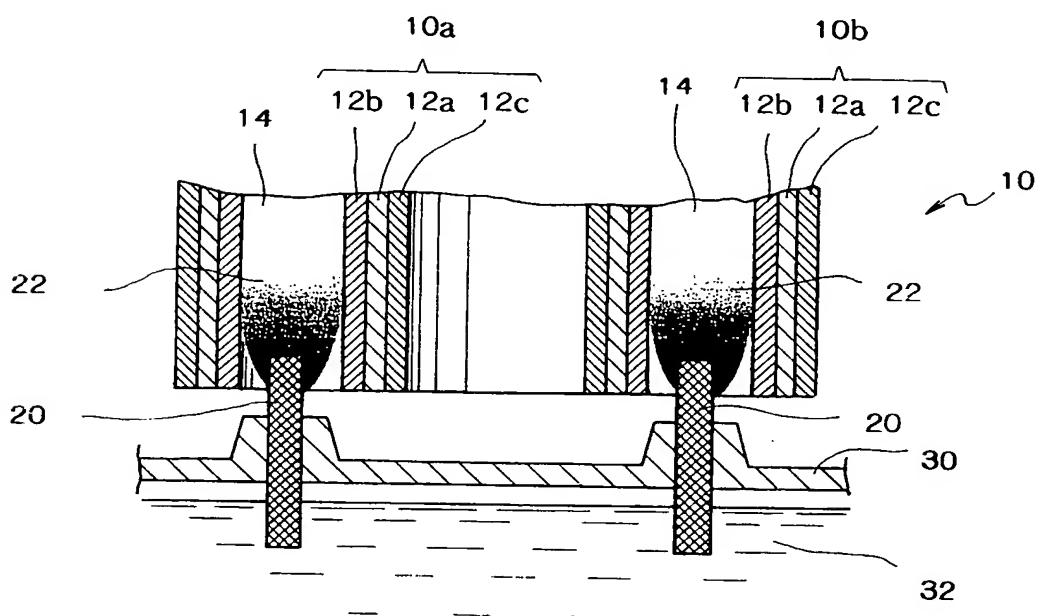
【図 2】



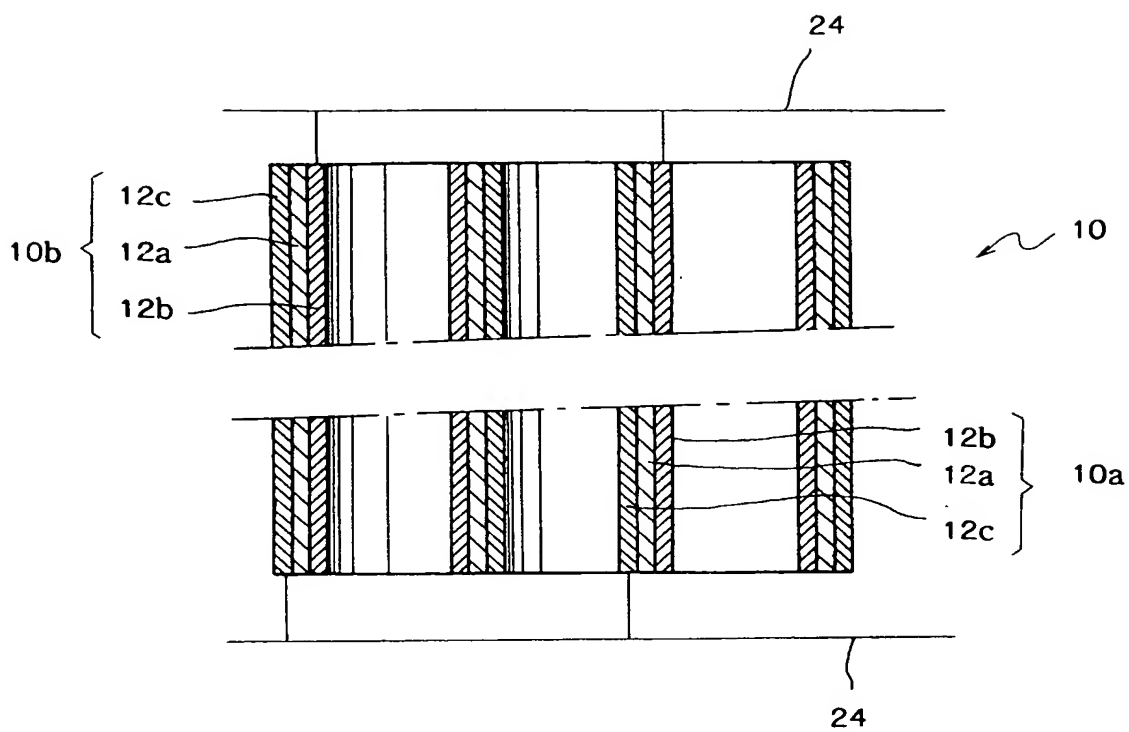
【図 3】



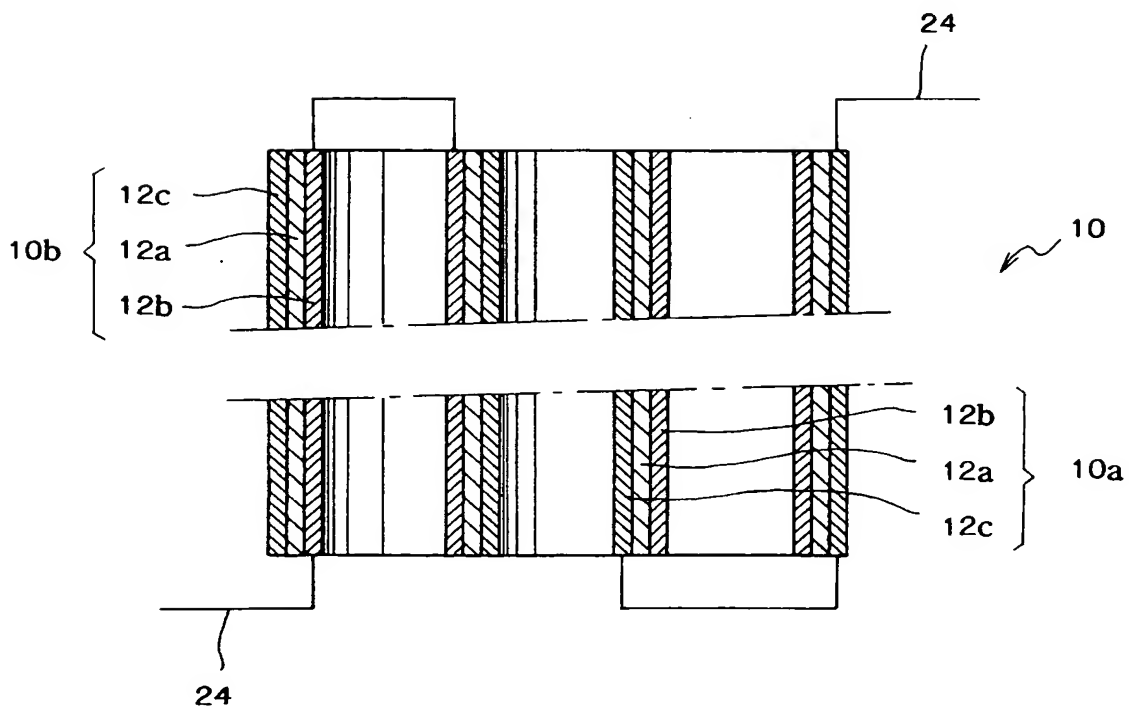
【図 4】



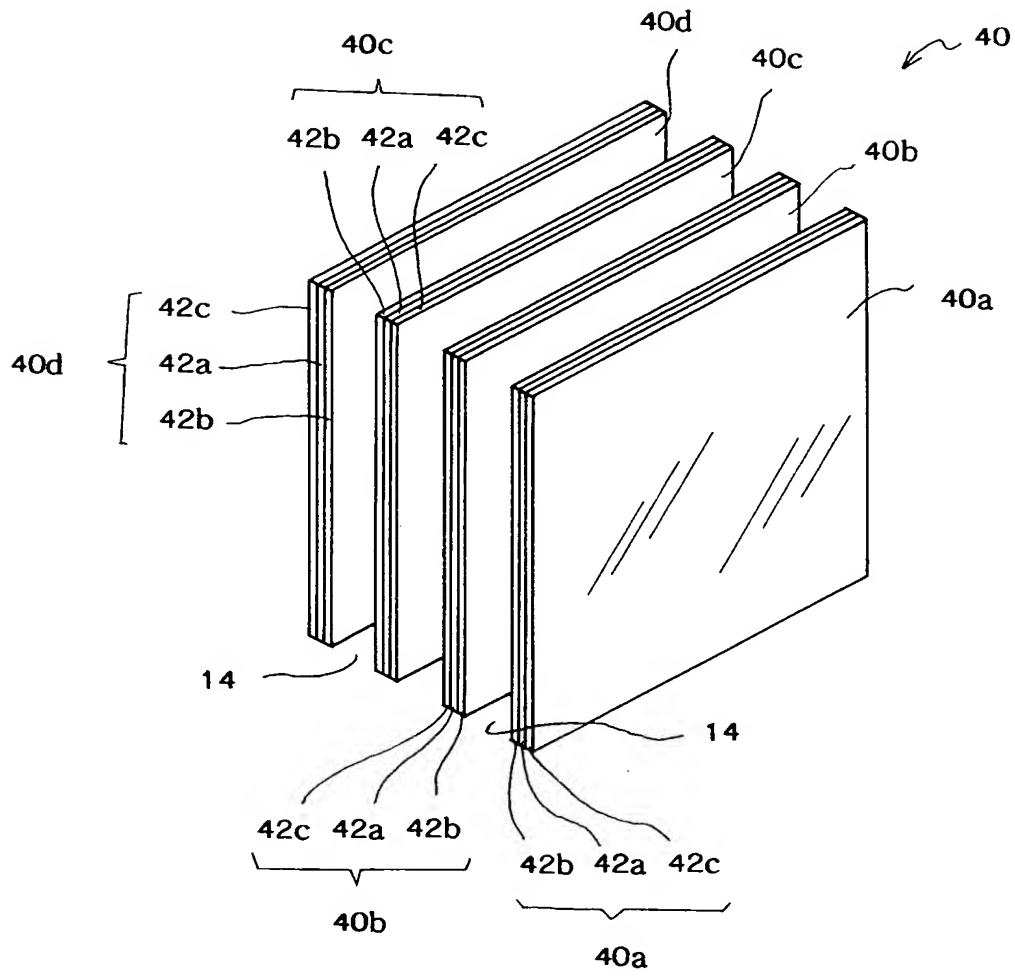
【図 5】



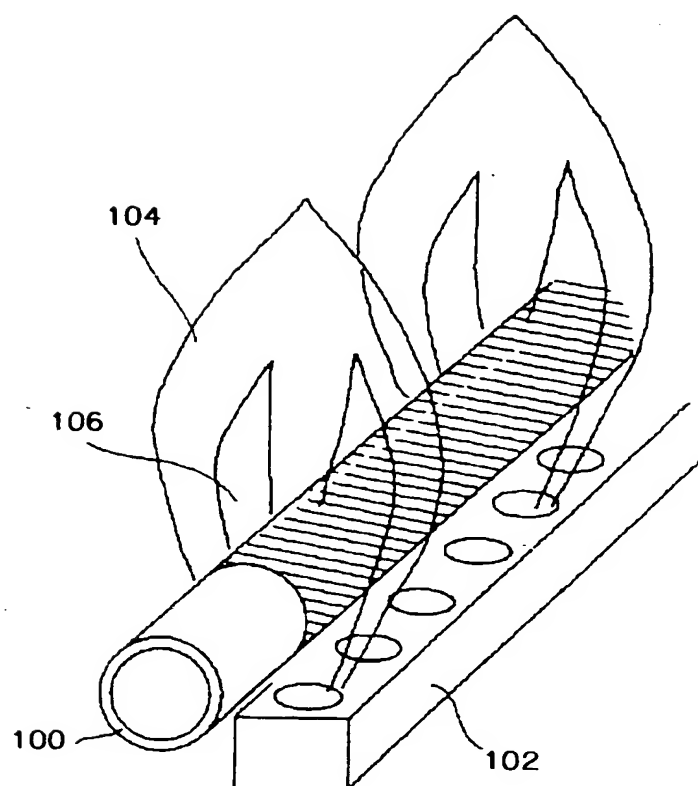
【図 6】



【図 7】



【図 8】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 火炎を利用した燃料電池であって、火炎の熱を効率的に用いることができ且つカソード層側に十分な空気を対流によって供給できる燃料電池を提案する。

【解決手段】 固体電解質層 1 2 a の一面側にアノード層 1 2 b が形成されていると共に、固体電解質層 1 2 a の他面側にカソード層 1 2 c が形成された、内径の異なる二個の燃料電池セル 1 0 a, 1 0 b から成る燃料電池セル部 1 0 を具備する燃料電池において、該二個の燃料電池セル 1 0 a, 1 0 b が、燃料電池セル 1 0 a を形成するアノード層 1 2 b と燃料電池セル 1 0 b を形成するアノード層 1 2 b とが対向するように配設され、アノード層 1 2 b、1 2 b が対向する空間 1 4 内で且つアノード層 1 2 b の延出方向に火炎 1 8 が形成されるように、空間 1 4 の下端側に気体燃料を吐出するノズル 1 6 が設けられている

【選択図】 図 3

特願 2 0 0 3 - 1 0 4 3 3 3

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [0 0 0 1 9 0 6 8 8]

1. 変更年月日 1 9 9 0 年 8 月 2 0 日
[変更理由] 新規登録
住 所 長野県長野市大字栗田字舎利田 7 1 1 番地
氏 名 新光電気工業株式会社
2. 変更年月日 2 0 0 3 年 1 0 月 1 日
[変更理由] 住所変更
住 所 長野県長野市小島田町 8 0 番地
氏 名 新光電気工業株式会社